

## 2011年度版 授業改善に関する報告

玄野 博行\*<sup>1</sup> 村田 隆志\*<sup>2</sup> 安木新一郎\*<sup>3</sup>

## Report on Teaching Improvement in 2011

Hiroyuki Genno\*<sup>1</sup> Takashi Murata\*<sup>2</sup> Shinichiro Yasuki\*<sup>3</sup>

## キーワード

授業改善、授業自己点検書、授業アンケート、クリッカー、インターネット、  
サイト

## I はじめに

近年、あらゆる大学において、大学教員に寄せられる期待が様々な形で大きくなっている。例えば、多様化した学生に対する教育活動、公正かつ活発な研究活動、学内における行政活動、地域社会へのサービス活動などが期待され、これらの様々な職務を果たすために必要な資質が求められるようになってきている。本学でも、このような高度で多様な職務を遂行することが期待されており、大学教員としての職業的特徴を理解し、必要な知識や技能を習得しておくことが求められている。

本稿は、以上のような様々な職務のうち、教育活動に焦点を当てている。その理由は、教育活動についての書物が、近年立て続けに出版されており、そのタイトルにキーワードとして頻繁に登場するのが「授業改善」という言葉にあるように、教育活動が行き詰まっているという評価が定着してしまっている感があるからである。実際、本学においても教育活動に関して様々な取り組みが試みられており、その具体的な中身も、カリキュラム改革、シラバス作成、学生による授業評価の実施、授業自己点検書の作成、教員による授業参観など多岐にわたる。しかし、本格的な取り組みは、まだまだこれからという段階であることも事実である。

そこで、以下においては、教育活動でもっとも重要なことはやはり授業の中身や方法であるという観点のもと、各執筆者による授業改善に関する報告を提示する。このような試みが、本学における今後の授業改善のアイデアのひとつになれば幸いである。

なお、IとIIIを玄野が、IIを安木が、IVを村田が担当した。

\*1 げんの ひろゆき：大阪国際大学人間科学部講師（2012.5.30受理）

\*2 むらた たかし：大阪国際大学国際コミュニケーション学部講師

\*3 やすき しんいちろう：大阪国際大学ビジネス学部講師

## Ⅱ 本学における授業改善の実践例：平成21～22年度授業自己点検書を中心に

### 1. はじめに

大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部において専任教員は「授業自己点検書」を年2回提出することになっている。授業自己点検書は平成21年（2009年）前期分から本学ホームページにおいて公開されている。

ここでは平成21～22年度の計4期分の授業自己点検書の中から、今後の授業改善を実施する上で参考になるとと思われる事例の一部を紹介する。

本学の授業自己点検書は、科目名、教員名、曜日・時限、教室、授業回数を記載した上で、①前年度の（または新しく設定した）課題に対する取り組み、②「授業満足度アンケート」の結果に対するコメント、③次年度への課題の3つの質問事項により構成されている。なお、平成23年度から「授業満足度アンケート」は「授業についてのアンケート」に名称変更された。

授業自己点検書の作成目的は、教員各人が設定した授業に関する目標の達成度について自己分析することと、受講学生からの客観評価に回答するという形式を取りつつ、自己の授業内容を振り返ること、その上で来年度以降の授業改善の目標を設定すること、というようにまとめることができるだろう。

このような授業自己点検書に記載された事例をまとめ公表することは、今後の本学における授業改善の取り組みの参考になると考えられる。

以下では、（1）授業の形式について、（2）授業の方法についての2項目に分けて授業改善の事例を紹介し、最後にまとめを述べる。

なお、本学は一回当たりの受講者数が100名を超えるような講義は限られており、少人数クラス編成による授業の大宗をなしていることから、以下で挙げる授業改善の事例は少人数クラスを前提としたものが多い点を付記しておく。

### 2. 授業の形式について

#### ① 教員・学生間および学生間の信頼関係の形成と活用

- ・ 早い段階でクラスの習慣を作り上げ、教室に温かい活気ある雰囲気を作る。例えば、
  - （イ）学生の顔と名前を覚える。
  - （ロ）学生をニックネームで呼ぶ。
  - （ハ）教壇に立つだけでなく、巡回しながら気軽に質問できる場を作る。
- （ニ）授業内容に沿った話題について教員の体験談を語り、リアリティを加えると同時に学生が教員に関心を持つようにする。
- ・ 講義への集中力を維持するために休憩時間を入れる。
- ・ アイスブレイキングとして一人一人に声をかける。
- ・ 実技等をゲーム形式で実施し、クラス内で形成されたグループメンバー間でのコミュニケーションを積極的に図るようにする。
- ・ 定期的に小テストを実施し、学生の解答を見ながらコメントすることで、既出の内容に

対する理解を深める。

- ・授業理解が不十分だと判断される学生に対し、時間を取って丁寧な指導を行う。

## ② 安定した授業環境の形成

- ・座席指定制もしくはこれに類すること（席の間隔を1人分空ける）を制度化することで、私語を減らす。
- ・出欠確認を徹底して行う。授業開始30分後は講義室を閉鎖する、また、授業終了30分前に課題プリントを配布し、プリント未提出の場合欠席扱いとする。
- ・遅刻者に対して、威嚇や脅迫ではなく注意を行う。なぜ遅刻してはいけないのかについて、十分に説明する。
- ・出席していても寝ている学生を減らすために、授業終了15分前に小テストを実施する。その際、この小テストが単位認定に影響することを事前にアナウンスしておく。

## 3. 授業の方法について

### ① 教材の活用

- ・パワーポイントを活用する。例えば、前回までの授業の復習用にパワーポイントで提示する。ただし、板書した内容やメモ取りも指示する。
- ・記入式（空欄補充式）の手作り教材・プリントを作成し配布する。
- ・教科書と連動した配布資料を補助教材として配布する。補助教材に関連する教科書の頁が明記してあるなど。
- ・教材にアンダーライン等を引かせ、後から学生が教材を見返すときに重要な点であることがわかるようにする。その際、強調した点と資格試験等との関係について解説しておく。
- ・最新の新聞・雑誌記事を書画カメラ等で投影し、授業と現実との関係について説明する。

### ② スムーズに授業に入るための工夫

- ・授業開始直後は（バック・グラウンド・ミュージックにのせて）、前回までの授業を振り返り、今回の授業の内容（目次）について解説するなど、授業計画全体におけるその授業の位置付けについて確認する時間を設ける。
- ・Moodleを活用することで、課題提出や配布プリントが入手しやすいようにする。
- ・事前に授業内容に関する調査を指示しておき、授業内で解説する。
- ・授業の最後にまとめをしっかりと行い、次回の授業への橋渡しとする。

### ③ 遅刻者・欠席者や授業参加に消極的な学生に対する評価の厳格化

- ・授業開始から10分間の課題（前回の復習）を実施し、遅刻や欠席のため課題を提出できなかった学生を選別し減点する。
- ・授業内で小テストを実施し、寝ている学生や筆記用具を持参していない学生を選別し減点する。

#### ④ 学習補助者の活用

- ・教員の適切な選択・事前指導を前提として、助手やTA（ティーチング・アシスタント）を活用する。特に、実習授業における学生からの質問やトラブル対処を助手やTAとともに行うことは、学生の授業理解や脱落防止に有効だと考えられる。

以上の事例は、一般的な講義や実習における授業改善の実践例である。本学では、インターンシップ、スタディ・アブロード（海外事情研修）、ボランティア派遣、PBL（Project/Problem-Based Learning）など、さまざまな科目を提供しており、こうした実践型学習に関する科目における授業改善の事例についても収拾し考察することが今後重要になると思われる。

### Ⅲ 授業アンケートに連動した授業改善法とその他の実践事例

#### 1. はじめに

近年、学生による授業評価を行う大学が急速に増えており、本学においても『授業についてのアンケート』と題して、年に2回実施されている。その主な設問内容は図表1のとおりであるが、これは言うまでもなく、授業に対する受講生の感想を調べて、「授業改善」に役立てていこうという取り組みである。このような授業評価が注目されるのは、何といても、旧態依然の授業に対してショック療法的な効果が期待されているからだとも言えよう。

図表1 主な設問内容

<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 私はこの授業に意欲的に取り組んだ。</li> <li>◇ 私にとって、この授業の内容は理解しやすいものだった。</li> <li>◇ 教員の話し方は聞き取りやすかった。</li> <li>◇ 教員の教材の提示方法（板書、配布資料、OHP、ビデオ画面、PC画面など）はわかりやすかった。</li> <li>◇ 教員は意欲的に授業に取り組み、熱心な指導をしていた。</li> <li>◇ 教員が学生に意見や質問の機会を与え、コミュニケーションをとるよう努めていた。</li> <li>◇ 私はこの授業によって、教養や知識または技術が身についた。</li> <li>◇ 私はこの授業に満足している。</li> </ul>
--

しかし、「授業改善」ということに目を向けてみると、さまざまな関連書籍が見受けられ、教員自身もどこから手をつければよいか分からないまま放置されている状況もあると考えられる。このような状況の中、筆者は香取監訳 [1995]、池田・戸田山・近田・中井 [2001]、宇田 [2005] を参考として、自らの授業改善に役立てている。とくに香取監訳 [1995] については、本学において実施している授業アンケートを活用した授業改善に大変役に立つ

ものだと言える。

そこで本章では、本学の授業アンケートに連動した授業改善法の紹介と<sup>1</sup>、筆者が実際の授業において活用している「クリッカー」に関する簡単な事例を紹介する<sup>2</sup>。

## 2. 授業アンケートに連動した授業改善法（以下、順不同）

- 授業で教えられる主要な考え方や事実関係についての情報を結びつけるための概念的枠組みを学生たちに与える。
  - ✓ 学生にとっては、専門分野における情報は多過ぎると言える。そこで、概念的枠組みを構築することにより、学生が機械的に暗記しなければならない量をできるだけ少なくなるようにする。
  - ✓ 授業全体における概念的枠組みとしての基本的な分類法を作成する。この分類法は、新しい情報が書き込まれる基盤として、毎回学生に提示する。そこでは、学生に概念間の関連を理解させるために、基本的な事柄を結びつけることの必要性を強調する。
- 基本原則の基礎を繰り返し教える。
  - ✓ 基礎知識についての学生の理解をいっそう深めるために、基本原則の基礎を徹底的に繰り返し論じる。
- はじめての事柄を学ぶ学生たちの立場を理解する。
  - ✓ 授業用の資料を作成したら、もう一度よく見直し、「この理論だてのどの部分が学生たちにとっては理解が難しいだろうか」とか、「どのような例を挙げればもっとはっきりと説明できるだろうか」などと自分に問いかけてみる。
- 授業の焦点をいくつかの主要なポイントに絞り、例外的であったり、複雑すぎたり、あまり細部にわたる不要なものを省略する。
  - ✓ 明確な説明をする秘訣は、1つの授業で扱う事柄の数を少なめにするところである。例えば、主要なポイントを3つに絞り、授業があるたびに、いろいろなやり方でそれらを繰り返す。初学者向けの授業は、基礎に焦点を絞り、一般化したかたちで、原則はずれる例外的なものをあまり多く取り上げないようにするとよい。
- 主要なポイントは言い方を変えて数回説明する。
  - ✓ 繰り返すことは学ぶことに通じる。主要なポイントについては違った観点から、あるいは言い方を変えて数回繰り返す。
  - ✓ 1回だけで、すべての学生がすっかりわかるような説明などない。違った言葉を用い、違った例を挙げることで、すべての学生がいつかは理解するという可能性を最大にする。
  - ✓ 自分で用いる言葉を意識的に変えて、同じことを2回言うようにする。例えば、最初は正式な言い方で、次に話し言葉を用いる。
- 具体的な例、あるいは覚えやすい例を、時間をかけて多用する。
  - ✓ 何を例に挙げるかの選択は大変重要である。学生が最もよく覚えているのは、逸

話的な、個人に関する、ユーモアに富んだ例である。

- 難易度の高い概念は、あらかじめその難しさを伝える。
  - ✓ 難しいことを学生たちに教えるときは、「このことはほとんど全員にとって難しいと思う。だからよく聞くように」などと言って、そのきっかけにする。授業時間中の学生たちの集中の度合いも違うし、新しい概念を紹介したり、難しいポイントを説明する前には、みんなが注意深く聞くようにさせることが重要である。
- この授業で何を学ぶか、そしてそれはなぜかを学生たちに理解させてから授業を開始する。
  - ✓ 例えば、最初の20分間でこれこれのトピックについてまず話し、次の20分間でそれをどのように使うかを示し、そして最後の10分間で質問を受け付ける、などと宣言すると効果的である<sup>3</sup>。
- 毎回の授業で最も重要な概念に対し、はっきりと注意を向けさせる。
  - ✓ 最も重要な考え方について授業するときには、そのことに対し学生たちの注意を向けさせる必要がある。例えば、何かを話す前に、「このことはとても重要なので、注意深く聞いてください」などと言って、その重要性を予告したりする。一方、要約を述べるときに、「ここで覚えておくべき最も重要な事柄はこれこれです」などと言って、事柄の重要性を強調したりする。
- 主要な概念に対し学生たちの注意を引きつけるため、芝居がかった間の取り方や繰り返しを利用する。
  - ✓ 授業の最も重要なポイントを伝える際に、違った言い回しや例示を用いた繰り返しが必要である。芝居がかった間の取り方は重要な概念を際立たせるための1つの方法である。
- 授業を開始する前に、授業の概略を提示する。
  - ✓ 最初に授業の概略を提示しておけば、話題を変えたときにも、これが今日の討論のどのへんにあたるのか、学生たちにはすぐわかる。トピックからトピックへの移り変わりや、それぞれの関連性に学生の注意を喚起するため、提示しておいた授業の概略にも触れることができるようになる。
- できるだけ箇条書き表現を使う。
  - ✓ 箇条書き表現は主要なポイントと、詳細にわたる例や脱線した部分とを弁別する助けとなるので、物事を要約して述べるための授業の組み立て方としては、大変すぐれたものである。
- 授業を始める前に、その日の授業の目的を提示する。
  - ✓ まずはじめに授業の目的や方向について伝えることは、物事を教授することの最も重要な一側面である。学生たちは授業がどこに向かうのかを知る必要があり、そうすることで自分たちがどこへ向かうのかを理解することができる。
- 授業で取り上げるトピックスに関し、質問のリストを作成して学生に与える。
  - ✓ 質問を連ねて授業の概略を伝えることにより、授業を聞きながら、いろいろと積極的に考えるよう、学生たちを刺激することができるようになる。これらの質問

の数々は、学生に概念の枠組みや指針を与え、討論全体を通じ、いまどのあたりにいて、これからどういった方向に進んでいくかがすぐわかるよう周到に準備されている。また、授業の概略を質問形式で伝えておくことで、学生がしっかりと集中したり集中が途切れたりの波があっても、話の脈絡がすぐにつながるようにしておけることになる。

- ▶ 前回の授業の要点をまとめることで授業を始め、次いで学生たちの質問を募る。
  - ✓ 授業の冒頭で前回の要約をしたり、質問を募ったりすることの利点は、その時間なら学生たちもまだだらけていないし、要点を繰り返し聞くことにより、自分で質問したいことがあるかどうかよくわかることになる。
- ▶ 毎回の授業で5～6人の学生に焦点をあわせ、あたかもその学生たちと個人的に話しているかのごとく授業を進める。
  - ✓ 数人の学生たちに焦点をあわせることで、教員自身がリラックスでき、打ち解けた気分になれる。また、こうすることによって、自分が学生たちにどのような印象を与えているかなどということより、学生たちにどのようなアイデアを伝えたいのかということに集中することができる。その結果として、表現力に富んだ、確信に満ちた話し方ができるようになる。

### 3. クリッカー活用に関する報告

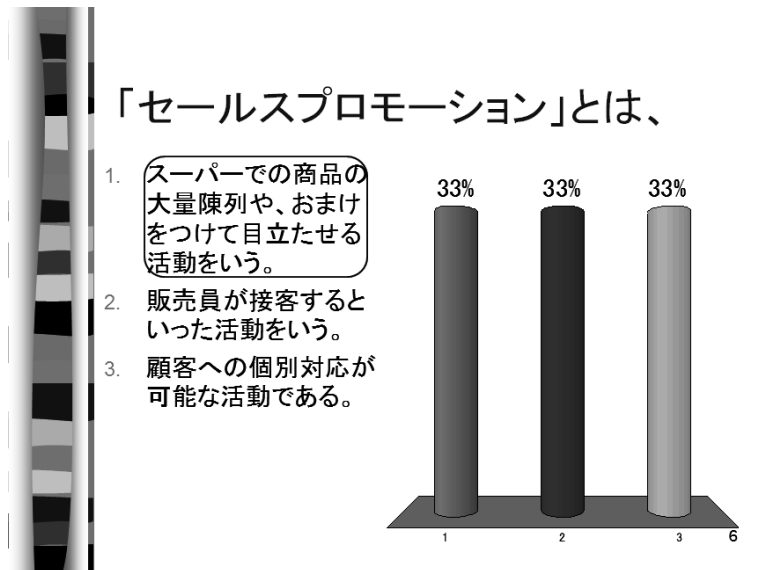
#### ① クリッカーの概要

「クリッカー」とは、教育現場で「授業で学生が応答するために用いるリモコン」のことである（図表2）。正式名称は、「オーディエンス・レスポンス・システム」で、授業応答システムと呼ばれることが多い。クリッカーを使用することにより、また特定の時点における学生たちの理解度や意見を簡単にチェックして、それをグラフ化したものを学生たちに見せることができる（図表3）。このことにより、学生たちの理解度や意見をリアルタイムに把握し、さらに学生たちにフィードバックすることができるので、「教員と学習者の双方向コミュニケーションを可能にするコミュニケーションツール」と言われている。

図表2 クリッカー



図表3 活用例



## ② 現時点での成果

現時点は試行段階として、筆者が担当した平成23年度後期科目「ファッションビジネスⅡ」「マーケティングⅡ」「流通特論」において、クリッカーを活用した双方向性の高い授業を展開してきた。その成果は、次のようなものが挙げられる（以下は成果の一部である）。

- 学生は、自分が入力した答えとスクリーンに映し出された回答状況を比較しながら、自分の理解や興味を高めることが可能となった。
- 教員は、講義の内容に学生たちの興味を引きつけ、彼らの理解度を確認しながら、より教育効果の高い授業を構築することが可能となった。
- 授業の前に学生がどの程度その基礎となる知識を理解しているかを、また授業途中で学生たちの理解が進み、授業についてきているのかどうかを、さらに授業の最後に、その授業をとおして新しい知識・技術が身についたかどうかをチェックすることが可能となった。このプロセスにより、授業の難易度が学生たちのレベルに不相当である場合や提示方法の問題がある場合などには、教員のほうでそれを把握し、より学生たちのレベルとニーズに合った授業へと調整することができるようになった。
- さらに授業の中で、ディスカッションを行うためにもクリッカーは有用であった。例えば、授業に関する質問を行う場合、リアルタイムで全体の回答を学生たちが共有することができ、学生同士のディスカッションをもとに興味をもって回答に取り組むことが可能となった。

以上のように、クリッカーを用いた最大の収穫は、学生の理解度の把握ができ、その場で説明の仕方の改良が可能になったことである。さらに質問の正答率のデータが残るため、



今後の教授法の改善の参考になることも挙げられる。

### ③ 今後の課題

上記の成果にもあるように、各教員が教授法改善を望むのであれば、クリッカーの導入は非常に大きな効果を生むものと思われる。クリッカーの導入は、教員サイドからは学生の理解度確認のための質問が容易に行える点が利点であり、その結果各教員の教授法の進歩が自然に促されるといえる。筆者が所属する学科におけるクリッカーの導入は始まったばかりであり、今後更なる導入により、学生の現状把握が多くの教員に可能となり、そして本学における更なる教育の質向上につなげていくことが今後の課題である。

#### 【参考資料】

池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹 [2001] 『成長するティップス先生：授業デザインのための秘訣集』玉川大学出版部。

宇田光 [2005] 『大学講義の改革：BRD（当日レポート方式）の提案』北大路書房。

香取草之助監訳 [1995] 『授業をどうする！：カリフォルニア大学バークレー校の授業改善のためのアイデア集』東海大学出版会。

KEEPAD JAPAN ホームページ (<http://www.keepad.com/jp/index.php>)

## Ⅳ 講義・セミナー科目等に活用できるサイトとその活用例

### 1. はじめに

日々充実の度を強めるインターネット上の情報を講義に活用しようとする試みは、本学においても盛んに行われている。それぞれの学科特性に従い、すでに様々なサイトが活用されているが、利用することによってより高い教育的効果を発揮しうるサイトが存在しているにもかかわらず、基本的には教員各人がそれぞれに目にしたサイトを個人的に活用しているのに留まっているのが現状であろう。本章は、筆者が教育に活用している各種のサイトをそれぞれのジャンルごとに紹介することにより、以って本学の教育を充実させることを眼目としている<sup>4</sup>。

なお、本章において紹介しているサイト<sup>5</sup>は、教員が内容を把握しておき、適宜活用して講義内容等の一層の充実を図るべく用いるべきサイトと、少人数教育を実施している本学ならではの特色を活かしてセミナー等で学生に周知し、自学自習を補助する目的で使用すべきサイトの二種に大別されるが、以下の紹介では教員各自の判断で使用されることを期して特に区別することなく掲載した。また、掲出の各サイトはいずれも平成24年(2012)8月15日時点で閲覧可能であることを確認している。

### 2. 教育全般

#### ① 情報処理推進機構 教育用画像素材集

<http://www2.edu.ipa.go.jp/gz/>

利用規約に同意すれば、教育目的であれば多種多様な画像や動画を使用可能。社会（歴

史・文化・地理・産業)、国語、数学、理科、技術・家庭、音楽、美術、体育、外国語、その他(おりがみ・介護・情報・手話)などの各分野について、それぞれ相当数のデータが提供されている。基本的には小学校・中学校向けと思われるが、大学教育においても利用価値が高い。パワーポイントによる教材作成の際、好適な画像・動画データを利用することにより、学生の理解度を高めることができる。

## ② 公益社団法人 私立大学情報教育協会

<http://www.juce.jp/>

私立の大学・短期大学における教育の質の向上を図るため、情報通信技術の可能性と限界を踏まえて、望ましい教育改善モデルの探究、高度な情報環境の整備促進、大学連携・産学連携による教育支援の推進、教職員の職能開発などの事業を通じて社会に寄与する」<sup>6</sup>ことを目的とする団体の公式サイト。「私立大学教員の授業改善に関する調査」に基づく『私立大学教員の授業改善白書』をサイト上で閲覧可能であるほか、機関誌『大学教育と情報』などもアップされている。研究講習会の開催報告なども充実しており、最新の情報を教育に反映することができる。

## ③ カーリル

<http://calil.jp/>

一度の検索で、全国の公共図書館や、一部の大学図書館、専門図書館の文献所蔵状況とAmazonのデータベースを同時に検索可能。居住地域を登録しておけば、近隣の図書館での所蔵・貸出状況を簡単に把握できる。レポートや卒業論文指導の際、本学図書館に利用できる書籍が所蔵されていない、もしくは借り出されている場合等に、学生に本サイトの利用を促すことによって文献の閲覧が容易になる。

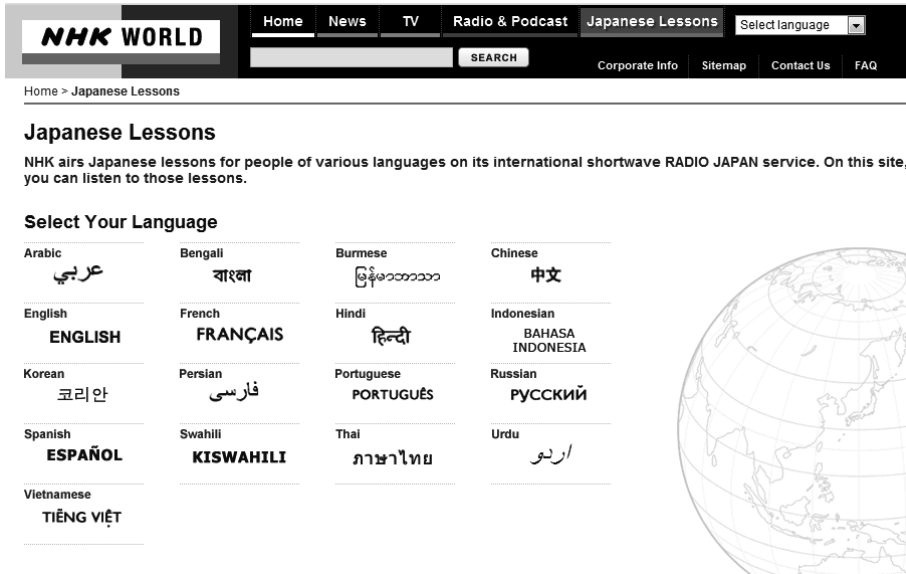
## 3. 語学教育

### ① NHK WORLD

<http://www3.nhk.or.jp/nhkworld/>

NHKが配信している外国語ニュースを視聴できるサイト。図表4右上の「Select language」からアラビア語、ベンガル語、ビルマ語、中国語、英語、フランス語、ヒンディー語、インドネシア語、朝鮮語、ペルシャ語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語、スワヒリ語、タイ語、ウルドゥー語、ベトナム語を選択することができ、それぞれの言語でNHKのニュースを視聴することができる。ニュース原稿がアップされているため、日本人学生のリスニング能力強化に役立つ。

図表4 NHK WORLD の画面



また、留学生にとっては日本国内の重要なニュースを母国語で知ることができるため、利用価値が高い。時事的な内容を講義で扱う際の前提となる知識を身につける手段としては極めて有効であり、初年時教育などで周知徹底しておくことが重要と思われる。また、東北大震災のような大規模災害等の発生時にも、NHKが発信する内容を母国語で知り得ることは意義深い。

挿図として示したように、外国人日本人学習者のためのページも併設されており、留学生の日本語能力向上に非常に効果が高い。本学における留学生への日本語教育は、基本的に日本語を用いて日本語を教える「直説法」によって行われているが、NHKは各外国語の話者に対応した内容を提供しているため、留学生に利用を促すことにより、授業ではフォローし難い各言語を用いての日本語学習機会を提供することができることが特筆される。

## ② NHK 語学番組

<http://www.nhk.or.jp/gogaku/>

英語、中国語、ハンガール語、イタリア語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、アラビア語の各言語で放映されている語学番組の紹介サイト。テレビ番組のページでは「今週のフレーズ」を聞くことができるだけに留まっているが、ラジオ番組のページでは前週一週間分の放送すべてを聴取可能。本学での授業に加えての自宅での学習に好適。

## ③ TUFs 言語モジュール

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/index.html>

東京外国語大学大学院が21世紀 COE プログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」の研究成果を活かして開発したもの。「英語については、小学校での総合学習や中学校で初めて学ぶ外国語としての英語を念頭において開発」されており、「英語以外の言語教材は主として大学生が初めて新しい外国語を学ぶための教材を想定」している。ネイティブの発音による、多様なシチュエーションのスキットを何度でも視聴できるため、通常の講義に加えての学生の自学自習に効果を発揮する。英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、朝鮮語などの日本人に比較的馴染みのある言語だけではなく、モンゴル語、インドネシア語、ウルドゥー語などの話者の比較的少ない言語についても教材が提供されている点に特色がある。また、フランス語であれば「ケベックのフランス語」「スイスのフランス語」、中国語であれば「北京の普通語」「蘇州の普通語」「台湾の普通語」というように、各地域の差異にも配慮した内容となっており、利用者の興味関心に応じて利用できる。

#### 4. 地域理解

##### ① 関西文化 .com

<http://www.kansai-bunka.com/>

例年11月頃に実施される「関西文化の日」は、通常は入館が有料の館も、無料として広く一般に公開される。学外授業で見学などを行う場合、この日に実施すると学生の経済的負担が軽い。歴史・美術・民俗などの一般的な博物館の枠に留まらず、経済・実業・医学系などの館も相当数参加しているので、各学科でそれぞれに活用ができる。加盟館、実施期間を検索可能。

##### ② 守口よもやま事典

<http://www.moriguchi-city.com/simin/yomoyama/YOMOI1.HTM>

守口市青年会議所が編纂して1996年に刊行された書籍のデータを公開している。部分的に情報が古くなっているものの、キャンパス所在地の周辺の文化的特色や地域性を知る上で有益。

#### 5. 就職指導

##### ① Indeed

<http://jp.indeed.com/>

リクナビ、マイナビをはじめとして、ハローワークなどの求人情報をほぼ網羅する求人情報検索サイト。学生のニーズに応じて、現在どのような職種で、どのような募集が出ているかをアドバイスする時、学生に自分で就職先を検討させる時に非常に効果的。特に、卒業直前で就職未決定の学生支援に活用できる。

##### ② ネット TAM

<http://www.nettam.jp/>

公共ホールや博物館・美術館、NPO 職員などを含む、アート関係の求人情報を検索可能な「キャリアバンク」には、博物館学芸員課程を擁する国際コミュニケーション学部や、情報デザイン学科をはじめとする本学学生にも好適な募集が多数掲載されている。

## 6. 防災教育

### ① 防災・危機管理 e-カレッジ

<http://www.e-college.fdma.go.jp/>

消防庁が提供しているインターネット上で防災・危機管理について学べるサイト。本学での教育に活用する場合、「地域で、学校で、すぐに使える！」と謳う「チャレンジ！防災48」の「中学生以上」で「災害発生時、とっさ取るべき行動を学ぶ」テキストを参考にセミナー I 等での防災教育を行うなどの活用法が想定される。

### ② 守口市 防災情報 災害・防災情報について

<http://www.city.moriguchi.osaka.jp/contents/bousai/menu.htm>

### ③ 枚方市 災害時避難所ガイドマップ

[http://www.city.hirakata.osaka.jp/freepage/gyousei/ki-kanri/hinan/hirakata\\_hinanmap.html](http://www.city.hirakata.osaka.jp/freepage/gyousei/ki-kanri/hinan/hirakata_hinanmap.html)

大規模火災発生時などに避難すべき「広域避難地」の本学近隣ではどこに位置しているかをあらかじめ認識しておくために、一見の価値がある。

## (Endnotes)

- 1 ここでは、香取監訳 [1995] をもとに授業改善法について紹介している。この文献の原書は1983年発行ではあるが、近年における授業改善法について検討する際にも大いに役立つものである。ただし今回は、本学の授業アンケートに連動した授業改善法の紹介ということであるので、本学において役に立つと思われるものをピックアップしている。より詳細なことは、文献を参照されたい。
- 2 「クリッカー」については、KEEPAD JAPAN のホームページを参照されたい。そこではさまざまな活用事例が紹介されている (<http://www.keepad.com/jp/index.php>)。なお、「クリッカー」活用にいたる経緯は、筆者が所属する学科における平成23年度戦略的経費予算に依るものである。この場をお借りして、学科関係者に感謝申し上げる。
- 3 例えば、筆者は実際に次のような講義方式を採用している。講義方式は当日課題提出方式を採用し、講義時間を①確認段階、②構想段階、③情報収集段階、④執筆段階、という4つの段階を経て進行している。まず確認段階では、当日の講義テーマを提示する。構想段階ではテーマに沿ったトピック・キーワードについて受講者に考慮・構想時間を与える。情報収集段階では、通常の講義と同じように、テーマに沿ったポイントの説明をする。板書、学生への発問・指名、マルチメディア機器を用いるなど、必要に応じて自由に講義を展開する。執筆段階では、学生にとっては復習の段階でもあり、授業でやった事項を整理しながら、レポートを書いていく。このような講義方式により、受講者は科目に関連した基礎的概念・理論的概念を理解・利用することができるようになり、さらにはレポート作成能力も身につけることができる。なお、この講義方式につ

## 国際研究論叢

いては、宇田 [2005] を参照されたい。

- 4 なるべく全学的に利用価値のあるサイトの紹介を心掛けたが、筆者の専門分野が日本美術史、書道史、博物館学である関係上、若干の偏りが出ている事は否めない。本学FD委員会授業改善班の今後の継続的な活動によって、欠が補われることが期待される。
- 5 国立国会図書館、NACSIS webcat、MAGAZINE PLUSなどの知名度が高く、既に利用が一般的なサイトについては本稿では割愛した。
- 6 当該サイトの解説による。以下の紹介文内の引用も同様である。